



巴工業株式会社

株主、投資家のみなさまへ

# TOMOE REPORT Vol.41

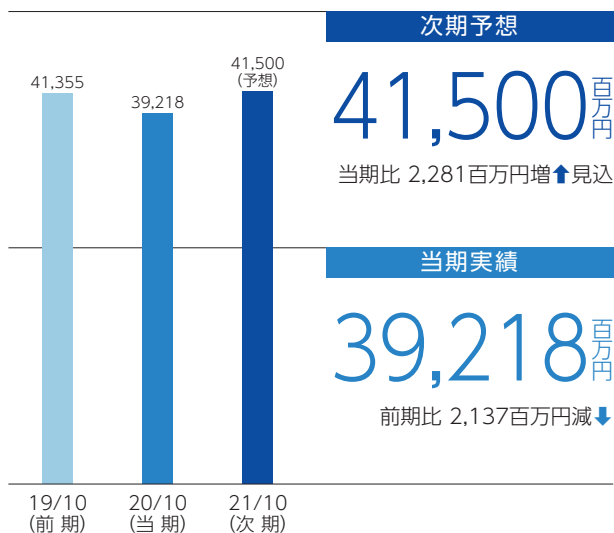
第91期 決算のご報告

2019年11月1日 ▶ 2020年10月31日

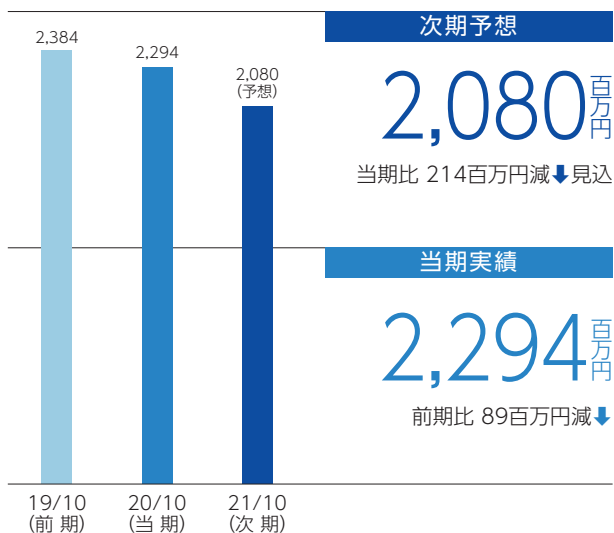
## CONTENTS

連結決算ハイライト	01
トップメッセージ	03
担当役員が語る	07
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

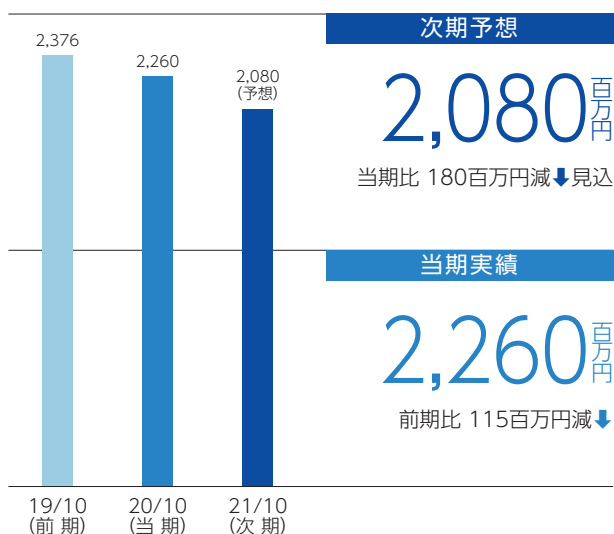
## 売上高 (単位：百万円)



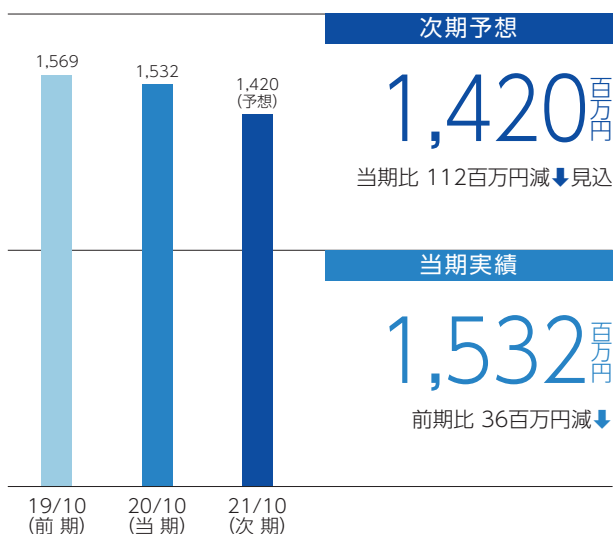
## 経常利益 (単位：百万円)



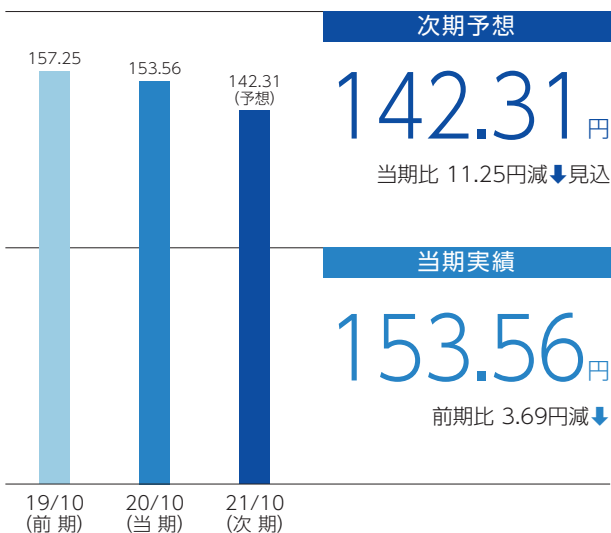
## 営業利益 (単位：百万円)



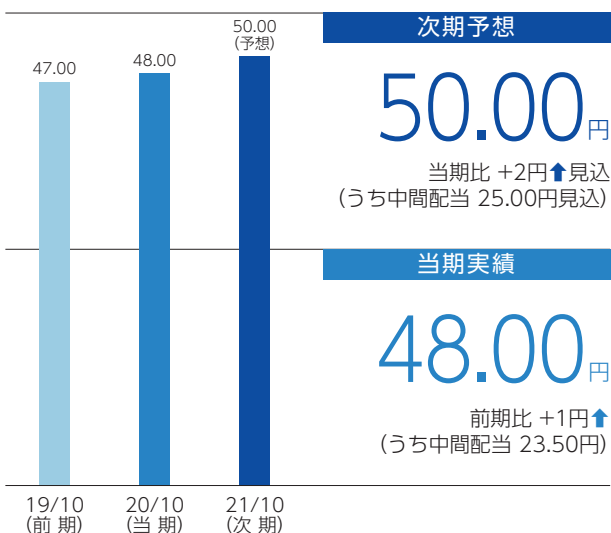
## 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



## 1株当たり当期純利益 (単位：円)



## 1株当たり配当金 (単位：円)



## 》決算のポイント

### 売上高

機械事業が増収となったものの、化学品事業が減収となったため、前期比5.2%減の392億18百万円となりました。

次期は、両事業ともに増収を予想しており、当期比5.8%増の415億円を見込んでおります。

### 営業利益

機械事業が増収となったものの収益性の良い海外向け部品・修理の販売の減少および販管費の増加から減益となり、化学品事業が減収を背景に減益となったため、全体では前期比4.9%減の22億60百万円となりました。

次期は、機械事業の利益率低下と、両事業での新型コロナウイルス感染拡大の影響により前年度抑制した将来の成長に資する営業開発や研究開発のための販管費の増加を見込むことから、当期比8.0%減の20億80百万円を見込んでおります。

### 経常利益

支払利息は減少しましたが、前期比3.8%減の22億94百万円となりました。

次期は、営業外収益・費用を見込まないことから、当期比9.4%減の20億80百万円を見込んでおります。

### 親会社株主に帰属する当期純利益

経常利益が減少したため、前期比2.3%減の15億32百万円となりました。

次期は、特別損益等の特殊要因を織り込まないため、当期比7.3%減の14億20百万円を見込んでおります。

## /// トップメッセージ

社 長 に 聞 く

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、  
厚く御礼申し上げます。

当社2020年10月期（2019年11月1日から  
2020年10月31日まで）が終了いたしましたので、  
ここに決算と主要項目につきまして  
ご報告申し上げます。

代表取締役社長 **山本 仁**



当期の事業環境と経営成績について  
お聞かせください。

A

国内景況は、期初は消費増税の影響などから個人消費を中心に低迷し、下半期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、大幅なマイナス成長となりました。海外においても、コロナ禍による景況感の悪化が深刻でした。このような環境の下、当社グループは工場部門の出勤率を50%、営業・管理部

門では20%程度を目安とするなどの感染症対策に取り組みながら、事業活動の継続に努めました。

当期の機械事業については、部品・修理の販売が低迷したものの、機械の販売では中国向けや国内官需向けが堅調であったことから、売上高は前期比2.7%増となりました。営業利益については、収益性の良い部品・修理が減少したことなどから前期比4.7%減となりました。化学品事業では、コロナ禍によって自動車・

建材用途向けなどを中心に全体的に販売が低迷した結果、売上高は前期比8.1%減、営業利益は前期比5.0%減となりました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高が前期比5.2%減、営業利益は4.9%減となり、経常利益は前期比3.8%減、親会社株主に帰属する当期純利益は2.3%減となりました。

## Q 今後の成長戦略について お聞かせください。

**A** 当社グループは当期から、3カ年の中期経営計画「Change For The Future ～将来のための変革～」に取り組んでおります。既存ビジネスの基盤を確固たるものとするとともに、新たな取り組みにも果敢に挑戦していくことで、価値を持続的に創造していける企業体質の実現を目指しており、2022年10月期に連結売上高490億円、連結経常利益26億円を達成するという数値目標を掲げております。

今後コロナ禍で厳しい事業環境が続くことが予想されますが、現時点では目標数値を変更せず、その達成を目指して全力を尽くしたいと考えております。既存ビジネスの大幅な拡大は難しい状況ではありますが、新たな取り組みの推進によって、目標を達成することは十分に可能であると見ております。その

鍵になるのが、SDGs（持続可能な開発目標）やDX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた取り組みです。

機械事業では、昨年4月に「新事業開発部」を新設し、SDGsに貢献する新たな製品の開発を急ピッチで進めてきました。現時点では詳細についてご紹介できないのですが、主力製品である遠心分離機とはまったく別のジャンルの製品となります。一方、主力の遠心分離機については、生産改革プロジェクトにDXを活用して大幅な原価低減や納期短縮を実現していくとともに、機械の単品販売だけでなく、複数の機械を組み合わせるなどして付加価値を高めた「小型プラント」としての提案に力を入れていく方針です。

化学品事業でもSDGsに貢献する新たな商品分野として、生分解性プラスチックやリサイクルプラスチックといった環境対応樹脂の販売拡大に努めています。また、新型コロナウイルス感染症の収束後には東南アジアや東欧などへの海外展開も加速したいと考えており、拠点開設の準備を着々と進めてまいります。

このように、機械事業と化学品事業のそれぞれで、今後はSDGsに関連したビジネスの比重が高まっていく見通しです。将来的には、SDGs関連のビジネスが、機械と化学品に次ぐ、第三の事業の柱となる可能性もあると考えています。

## /// トップメッセージ

社 長 に 聞 く



**Q** 次期の事業計画と業績見通しについて  
お聞かせください。

**A** 現時点では新型コロナウイルス感染症の収束  
についての見通しが立たず、当面は非常に厳  
しい事業環境が続くものと考えております。しかし、  
自動車・建材関連や海外市場など一部では復調の兆  
しが見え始めているほか、先ほどご紹介した新たな  
商材やビジネスに積極的に挑戦していくことで、一  
定の売上高を確保できると考えております。一方で  
利益面に関しては、機械事業における利益率の低下  
や、当期に感染症拡大の影響によって抑制した営業  
開発・研究開発のための販管費の増加を見込むこと

などから、減益となる見通しです。

機械事業では、官需は引き続き堅調に推移すると  
見ており、中国市場も回復してくると見込んでおりま  
す。また、SDGs関連の新規事業に関しても、期中に  
は何らかの成果をご紹介できるよう開発を急いでまい  
ります。化学品事業でも、中国市場がこのところ急速  
に回復してきており、自動車関連などはかなり期待で  
きる状況になってきました。この状況が他の産業にも  
広がってくれば、収益も回復すると見ております。

次期の連結業績については、売上高が当期比5.8%  
増、営業利益が8.0%減、経常利益が9.4%減、親会  
社株主に帰属する当期純利益が7.3%減と予想して  
おります。

**Q** 株主の皆様へのメッセージを  
お願いします。

**A** 当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課  
題の一つと位置付けており、財務体質と経営基  
盤の強化のため内部留保の充実を図りつつ、連結業績  
や中期的なグループ事業戦略などを総合的に勘案し、  
適正かつ安定的な配当を実施することを利益配分の基  
本方針としております。この方針に基づき、当期末の  
配当金につきましては、前期末よりも1円増配となる1  
株当たり24円50銭とさせていただきます。中間配

当23円50銭と合わせ、年間配当金は1株当たり48円となります。また、次期については1株当たり年間配当金を50円（中間配当25円、期末配当25円）とさせていただきます。これは、自己資本比率が77.2%と内部留保が充実していることや、将来の成長に資する投資を実施しながら利益確保ができる見通しが立ちつつあることから、株主の皆様への利益還元を強化するものです。

私は社長就任以来、社内に向け、「変わり続けなくては生き残れない」と徹底して説いてきました。コ

ナ禍でも一定の経営成績を残すことができているのは、こうした意識改革によって、従業員一人ひとりが新たなことに挑戦してくれるようになったおかげだと考えています。これからも、長年培ってきた伝統を大切にしながらも、変化することを恐れないチャレンジ精神を武器に、さらなる成長・発展を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任役員のご紹介 ▶ 2021年1月28日付で就任いたしました新しい役員をご紹介します。

**氏名** 藤井 栄  
**役職名** 取締役化学品本部副本部長(化成品部、電子材料部および合成樹脂部担当)

**生年月日** 1962年8月19日

**今後の抱負** コロナ禍で企業を取り巻く環境は今まで経験のないスピードで大きく変化しています。常に危機意識を持ち、変化に遅れることなく対応し化学品事業の業績向上に努めてまいります。



**氏名** 杉浦 路明  
**役職名** 取締役機械本部副本部長(環境設備営業部担当)

**生年月日** 1971年4月24日

**今後の抱負** これまでも増して世界が大きく変わっていく中で、その変化に迅速かつ柔軟に対応し、当社の持続的な成長ならびに企業価値の向上に貢献できるよう業務に邁進いたします。



**氏名** 八尋 研治  
**役職名** 取締役(常勤監査等委員)

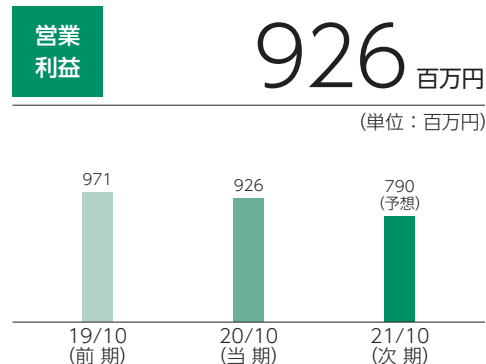
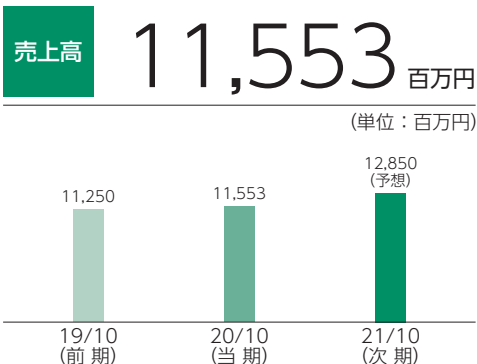
**生年月日** 1959年11月24日

**今後の抱負** コロナ禍において企業を取り巻く環境が激変する中、ステークホルダーの皆様への期待に応えるべく、企業価値の持続的向上に貢献できるよう精一杯努力する所存でございます。





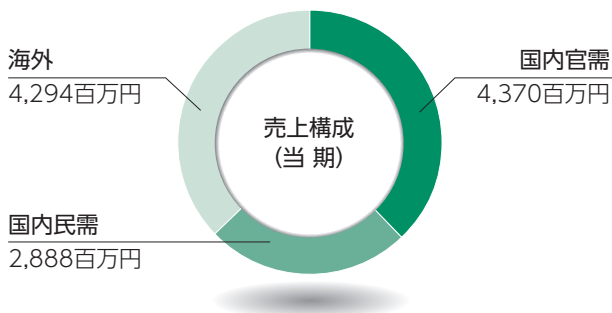
**機械事業**



» 業績

**2** 020年10月期の売上高は海外分野が減収となったものの、国内官需分野での大幅な増収を背景として、前期比2.7%増の11,553百万円となりました。分野別に見ますと、国内官需分野では部品・修理で前期を下回ったものの大型案件の受注を背景に、機械、装置・工事において前期を大きく上回り、同分野では前期

比22.6%の増収となりました。国内民需分野では化学工業、食品向けが好調であったものの、半導体関連向けが不調で装置・工事が大幅減となり、同分野では前期比3.8%の減収となりました。海外分野では機械が前期を上回ったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響による中国向け案件の一部繰延や、東南アジア向けの低調、欧州向け大型案件の減少により、装置・工事、部品・修理のいずれにおいても前期を下回り、同分野では前期比8.3%の減収となりました。その結果、営業利益については、前期比4.7%減の926百万円となりました。



» 次期の展望

**2** 021年10月期の売上高は当期を11.2%上回る12,850百万円、営業利益は同14.7%下回る790百万円を見込んでいます。



国内官需分野は機械の販売、装置・工事での元請工事や補修工事の販売増に注力しておりますが、同分野では減収の見込みです。国内民需分野は、化学工業、食品工業向けなどで順調に受注を重ねていることから、同分野では増収を計画しております。海外分野は中国・アジア向け部品・修理販売の新たな営業体制を構築し、積極的な営業活動の推進による販売増を計画しているものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響で案件の一部繰延が既に判明しており、同分野では減収の見込みです。また海外グループ会社においては、北南米におけるTomoe Engineering USA, Inc.を軸にした、医薬・食品、化学工業向けおよび排水処理分野での遠心分離機の受注、中国では巴栄機械設備(太倉)有限公司を軸とした、中国国内の化学工業を始めとする各種需要に対応可能な体制をより一層強化する計画を継続推進してまいります。

### 一 次期業績予想

売上高 ▶ 12,850百万円 (当期比 11.2%増↑)

営業利益 ▶ 790百万円 (当期比 14.7%減↓)

### ≫ 中期展望

**2** 021年10月期は第12回中期経営計画の2年目となります。海外ビジネスの新たな展開としてベトナムやタイを中心とした排水処理分野を開拓するほか、Tomoe Engineering USA, Inc.を軸として北米のみならず南米向けの需要掘り起こしを推進してまいります。中国においては巴栄機械設備(太倉)有限公司の本格稼働により、更なる営業展開を進めてまいります。国内販売においては、官需向けとして低動力型高効率遠心分離機の一層の拡販や高性能回転加圧脱水機の市場投入、民需向けとして前期から販売を開始したディスク型遠心分離機(分離板型遠心分離機)の拡販など、新たな分野への展開を進めてまいります。また2020年4月には「新事業開発部」を新設しました。SDGsに関連した新規製品の取扱いなど主力の遠心分離機とは別ジャンルの開発を進めています。生産体制の改革については、前期に引き続き生産性の向上と合理化によるコストダウンを推進してまいります。営業部門と生産部門が一体となってこれらの施策を進めることで、一層の業績拡大を図ってまいります。



ディスク型遠心分離機

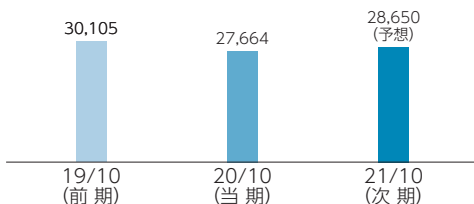
化学品事業



常務取締役  
化学品本部長 篠田彰鎮

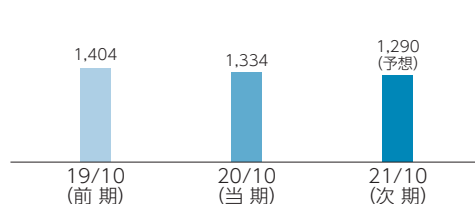
売上高 27,664 百万円

(単位：百万円)



営業利益 1,334 百万円

(単位：百万円)

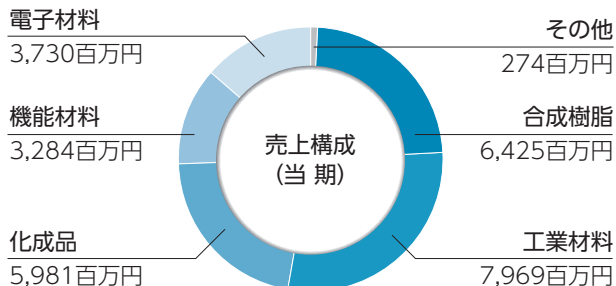


》業績

2 020年10月期は、スタート当初は好調な滑り出しとなりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い世界的な景気低迷が継続したことにより、多くの業界、業種に影響があり、昨年の実績を下回る結果となりました。特に国内では自動車、建材業界を始めとした化学品事業で取扱う製品の多くが需要の落ち込みにより販売減となっています。また、テレワークなど今まで経験したことのない働き方が一般的となり、営業を含めた事業活動

が大きく変化した一年でした。このような状況下、売上高は前期比8.1%減の27,664百万円、営業利益は前期比5.0%減の1,334百万円となり、減収減益の結果となりました。

商品グループ別に見ますと、電子材料関連は半導体後工程に使用される各種消費材の需要増により前期比では4.4%の増収となったものの、工業材料関連は自動車や住宅・建材用途向け各種鉱産物、金属向け添加剤、樹脂向け難燃剤など国内外向けの販売が大きく減少し、前期比で14.4%の減収、化成品関連も当初軽微な影響と見込まれたインキ・塗料向け有機原材料が需要減となり、前期比で3.4%の減収、機能材料関連では電子部品向け治具等の販売が好調だったものの、セラミック製品の販売が減少し前期と同水準、合成樹脂関連は国内で樹脂全般が低迷したほか、海外でも巴工業(香港)有限公司の中国向け汎用樹脂販売、ならびに星際塑料(深圳)有限公司の樹脂コンパウンドが低調に推移したため13.5%の減収となりました。



## ≫ 次期の展望

**2** 021年10月期は、新型コロナウイルスの感染拡大により営業活動が制限される中でのスタートとなりました。基本は当事業を支える既存商材の販売維持に加えて新規商材の開発、拡販および海外向け販売の増加を計画し、売上高については当期比3.6%増の28,650百万円、営業利益については当期比3.3%減の1,290百万円としました。

新型コロナウイルスの感染拡大による景気低迷期間が長期に及んでいます。自動車や建材など一部業界では景気回復の兆しも見え始めています。今後の国内景気動向は新型コロナウイルスの感染状況によって大きく変化すると見込まれます。この変化を予測することは困難ですが、関係取引先や業界などの状況を的確に判断し、スピード感のある経営を行ってまいります。半導体業界はコロナ禍でも影響が比較的軽微であり、引き続き堅調に推移するものと想定しておりますが、化学品事業は様々な業界と取引を行っておりますので、業界の景気による影響を最小限に留めながら活動をしていく所存です。加えて、引き続き製品販売の維持と合わせて新規商材の開拓・拡販を念頭に活動を行ってまいります。一方、海外におきましては、中国で急激な市況回復が見られます。特に星際塑料(深圳)有限公司による樹脂コンパウンド製造は、中国国内での自動車向けが好調で、受注が大きく増加しています。華南地区での巴工業(香港)有限公司、巴恵貿易(深圳)有限公司による商社活動と合わせ、三位一体となってビジネスの拡大を図ってまいります。TOMOE Trading (Thailand) Co.,Ltd. ではタイ国内のみならず東南アジア諸国やイン

ドへの拡販を企図することで事業全体の底上げを図っております。これらの施策により化学品事業の業績拡大に努めてまいります。

### — 次期業績予想

売上高 ▶ 28,650百万円 (当期比 3.6%増↑)

営業利益 ▶ 1,290百万円 (当期比 3.3%減↓)

## ≫ 中期展望

**2** 020年からスタートした第12回中期経営計画「Change For The Future ～将来のための変革～」では、当事業部門としては海外ビジネスの拡大、各部門の強化およびSDGsへの取り組みをテーマとしております。このような時期ではありますが、海外ビジネスでは、東南アジアでの更なる販売力強化を図ることを目的に新たな拠点設立を計画する他、開発部を中心に東欧、ロシア、アフリカへのビジネス進出および更なる商材開発を目指した事業展開を継続します。国内では、特に持続的な企業価値の向上を目指すためSDGsの取り組みに注力し、その中でも環境をキーワードに新商材の探索を進めており、既に実績も出始めていることから、更なる商材の探索と合わせて販売展開を行っていく所存です。

既存商材の着実な販売で足元を固めつつ、新たな商材による各部門の強化、各種投資による事業の拡大も進めてまいります。

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (19/10)	当期末 (20/10)	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	30,260	29,939	△321
固定資産	8,810	8,499	△311
有形固定資産	5,275	5,202	△72
無形固定資産	129	128	△0
投資その他の資産	3,405	3,167	△237
資産合計	39,070	38,438	△632
<b>負債の部</b>			
流動負債	9,564	8,085	△1,478
固定負債	645	684	38
負債合計	10,209	8,769	△1,439
<b>純資産の部</b>			
株主資本	28,224	29,287	1,063
資本金	1,061	1,061	—
資本剰余金	1,483	1,483	—
利益剰余金	26,043	27,107	1,063
自己株式	△363	△363	—
その他の包括利益累計額	636	380	△256
その他有価証券 評価差額金	439	307	△131
繰延ヘッジ損益	1	△1	△3
為替換算調整勘定	83	92	9
退職給付に係る調整累計額	112	△17	△130
純資産合計	28,861	29,668	807
負債及び純資産合計	39,070	38,438	△632

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (18/11~19/10)	当期 (19/11~20/10)	増減額
売上高	41,355	39,218	△2,137
売上原価	32,006	30,079	△1,926
売上総利益	9,349	9,138	△210
販売費及び一般管理費	6,973	6,878	△94
営業利益	2,376	2,260	△115
営業外収益	81	78	△3
営業外費用	73	44	△29
経常利益	2,384	2,294	△89
特別利益	—	0	0
特別損失	5	2	△3
税金等調整前当期純利益	2,378	2,293	△85
法人税等	809	761	△48
当期純利益	1,569	1,532	△36
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,569	1,532	△36

## ■ 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (18/11~19/10)	当期 (19/11~20/10)	増減額
当期純利益	1,569	1,532	△36
その他の包括利益	△105	△256	△151
その他有価証券 評価差額金	6	△131	△138
繰延ヘッジ損益	1	△3	△5
為替換算調整勘定	△102	9	112
退職給付に係る調整額	△10	△130	△120
包括利益	1,464	1,276	△187
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	1,464	1,276	△187

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (18/11~19/10)	当期 (19/11~20/10)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,868	661	△3,206
投資活動によるキャッシュ・フロー	△544	△485	58
財務活動によるキャッシュ・フロー	△478	△468	9
現金及び現金同等物に係る換算差額	△51	2	53
現金及び現金同等物の増減額	2,793	△290	△3,084
現金及び現金同等物の期首残高	9,354	12,147	2,793
現金及び現金同等物の当期末残高	12,147	11,857	△290

## ホームページのご紹介

当社ではホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、タイムリーな情報提供に努めております。是非ご活用ください。



URL <https://www.tomo-e.co.jp>

巴工業

検索

## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当期 (19/11~20/10)	株主資本					その他の包括利益累計額						純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
2019年11月1日残高	1,061	1,483	26,043	△363	28,224	439	1	83	112	636	28,861	
当期変動額												
剰余金の配当			△468		△468						△468	
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,532		1,532						1,532	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△131	△3	9	△130	△256	△256	
当期変動額合計	—	—	1,063	—	1,063	△131	△3	9	△130	△256	807	
2020年10月31日現在	1,061	1,483	27,107	△363	29,287	307	△1	92	△17	380	29,668	

## ≫ 会社概要

商号	巴工業株式会社
本社所在地	東京都品川区北品川五丁目5番15号
設立	1941年5月29日
資本金	10億6,121万円
従業員数	733名（連結）、426名（単体）
主な事業内容	<p>機械事業 遠心分離機はじめ各種分離機および応用装置・関連機器の製造・販売ならびに一般機器・装置類の販売</p> <p>化学品事業 合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびにこれらの関連製品・加工品の輸出入および販売</p>
ホームページ	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>

## ≫ 役員一覧 2021年1月28日現在

代表取締役社長	山本 仁
専務取締役	玉井 章友
常務取締役	篠田 彰鎮
取締役	矢倉 敏明
	伊藤 勝彦
	東 徹行
	佐田 淳
	藤井 修
	藤井 栄
	杉浦 路明
取締役（監査等委員）	深沢 正義
	八尋 研治（社外取締役）
	中村 誠（社外取締役）
	蓮沼 辰夫（社外取締役）

## ≫ グループネットワーク

- 機械事業
- 化学品事業

昆山事務所  
巴栄機械設備（太倉）有限公司

星際塑料（深圳）有限公司  
巴惠貿易（深圳）有限公司

TOMOE Trading (Thailand) Co.,Ltd.

巴工業（香港）有限公司  
星際化工有限公司

ジャカルタ事務所



## 株式情報

発行可能株式総数	24,550,000株
発行済株式の総数	10,533,200株
株主数	14,907名

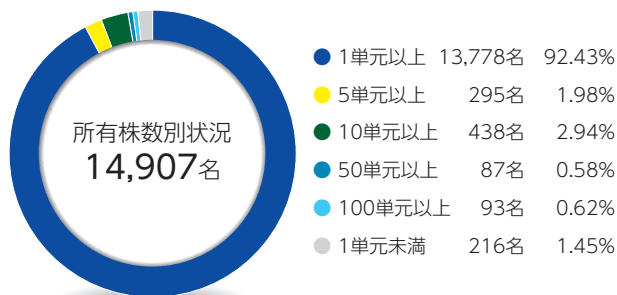
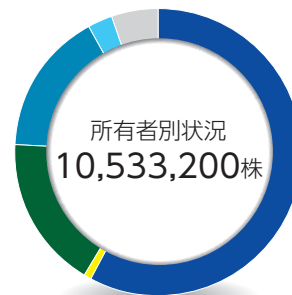
## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数(自己株式を除く)に 対する所有株式数の割合(%)
光通信(株)	969	9.71
巴工業取引先持株会	517	5.18
野田眞利子	397	3.97
(株)みずほ銀行	392	3.93
佐良直美	356	3.56
山口温子	314	3.14
巴工業従業員持株会	284	2.85
(有)巴企画	245	2.46
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	238	2.39
(株)三井住友銀行	180	1.80

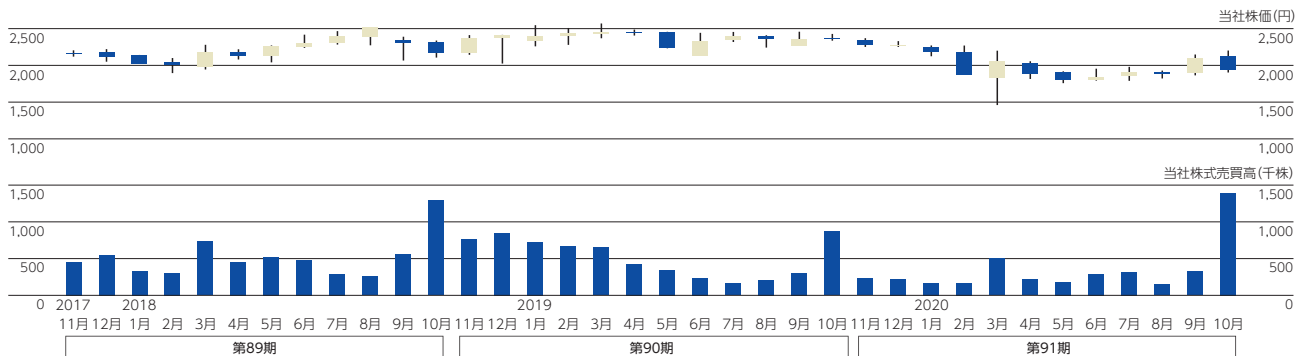
(注) 1.所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2.上記のほか当社所有の自己株式554千株があります。

## 株式分布状況

● 個人・その他	6,103,430株	57.94%
● 証券会社	99,024株	0.94%
● 金融機関	1,789,900株	17.00%
● その他の国内法人	1,701,133株	16.15%
● 外国法人等	284,852株	2.70%
● 自己株式	554,861株	5.27%



## 株価チャート





決算期	毎年10月31日
証券コード	6309
1単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当 毎年10月31日 中間配当 毎年 4月30日
公告方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載アドレス	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)

## 株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的として株主優待制度を設けております。



2020年にお贈りした2銘柄のうちの1つ

### 対象となる株主様

毎年10月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上保有の株主様

### 優待内容

ワイン（当社関連会社取扱商品）1本を贈呈

### 贈呈の時期

毎年12月下旬に送付



**巴工業株式会社**

〒141-0001  
東京都品川区北品川五丁目5番15号  
URL <https://www.tomo-e.co.jp>

本報告書には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



**UD FONT**